



2023 FIA-F4 JAPANESE CHAMPIONSHIP Rd.13-Rd.14 OTG Motorsports REPORT

11月4日 -5日 (Rd.13-14) 天候: 晴
コース: モビリティリゾートもてぎ



FIA F4 JAPANESE CHAMPIONSHIP (FIA F4選手権)は、SUPER GTを主催するGTAが若手ドライバーの登竜門として2015年にシリーズをスタートさせた。全戦がSUPER GTとの併催で実施されていて、これまでに多くのドライバーがSUPER GTなどの上位カテゴリーへとステップアップを果たしている。

FIA F4選手権は若手ドライバーの才能発掘や育成が理念になるが、独自のスカラシップ制度となる「FIA-F4 JAPANESE CHALLENGE DRIVER」を2017年に設立。この取り組みに賛同しているのが大阪トヨペットグループとダンロップで、スカラシップを得たドライバーはOTG motorsportsから年間を通して参戦してきた。今季は5代目のチャレンジドライバーとして野澤勇翔選手が選出されている。まだ高校生の野澤選手はJAFの限定ライセンスで同選手権に参戦し、昨年まで全日本カート選手権を主戦場としていてフォーミュラレースは初参戦となる。

2023年のFIA F4選手権は例年同様の年間7大会14戦で競われていて、5月に富士スピードウェイで開幕し、今回のモビリティリゾートもてぎが最終戦となる。また、2015年の競技開始時から使用してきたシャシーの童夢F110が最終年となり、来シーズンからは新しい車両に移行することが発表されている。

このようにカテゴリーの始動から一区切りとなる最終戦は、11月4日(土)に予選と第13戦の決勝レース、5日(日)に第14戦の決勝レースが実施された。

●予選 11月4日(土)8時30分～9時00分

第13戦 21位 1分59秒866 / 第14戦 19位 2分00秒092



今回もエントリーした40台が2組に別けられて予選が実施される予定だったが、モビリティリゾートもてぎは早朝から霧に包まれてしまう。視界不良のために8時からスタート予定だったA組の予選はディレイとなり、8時30分から30分間で40台が一斉に競う予選に変更された。

霧によって縁石などが濡れるコンディションの中で、野澤選手はアウトラップから2周をウォームアップに充てて計測3周目からアタックに入る。まずは2分2秒台のタイムを残すと6周目に2分1秒台、8周目には2分0秒台へ入れる。だが、40台がコースインしているためにクリアラップが取りづらくタイムが伸ばせない。

結果として13周目にマークした1分59秒866がベストタイム、11周目の2分0秒092がセカンドベストタイムで、第13戦が21位、第14戦が19位となった。

●第13戦 11月4日(土) 13時10分スタート

スタート21位、フィニッシュ13位



FIA F4選手権の予選後には霧も晴れ、第13戦の決勝レースは予定通りの13時10分にフォーメーションラップによって始動する。野澤選手はスタートやオープニングラップのポジション取りが課題とされていたが、今回はスタートでジャンプアップ。その後の1、2コーナーの混乱も上手く避けて、21番手から1周を終えた時点で16番手まで浮上した。だが、スタート後の1コーナーでコースオフしたマシンを回収するためにセーフティカーが導入される。レースは4周目にリスタートすると野澤選手は徐々にペースを上げていき、8周目には自己ベストタイムの2分0秒023をマーク。終盤に向けて追い上げを図ろうとするが、9周目にはコースオフ車両を回収するために再びセーフティカーランとなる。このタイミングで上位を走っていたマシンがトラブルのためにリタイヤし、野澤選手は15番手に順位を上げる。翌10周目にレースは再開すると、今後は12番手と13番手のマシンが接触して2台を交わすことに成功する。野澤選手は終盤までペースを落とすことなく13周目に13位でチェッカーを受けた。

これまでの最高位はスポーツランドSUGOで記録した15位だったので、13位は今季のベストリザルトとなった。

●第14戦 11月5日(日) 8時15分スタート
スタート19位、フィニッシュ15位(正式結果14位)



今シーズンの最終戦となる第14戦は、前日の第13戦から一夜明けた5日(日)に実施された。前日の同時時間帯に行なわれた予選は濃霧となったが、この日は朝から快晴で気温も11月の早朝とは思えないほど上がっていた。

19番グリッドに並んだ野澤選手は、前戦と同様に抜群のスタートダッシュを決めて1、2コーナーの混乱も再び避けることに成功した。3、4コーナーを立ち上がる時にはすでに13番手に浮上していて、ポイント圏内も見える位置での展開となる。2周目にはオープニングラップのコースオフした車両を回収するためにセーフティカーが導入されるが、3周目には再開する。リスタートも上手く決めた野澤選手は先行しているマシンを追ったが、後続からハイペースで迫るマシンを押さえる防戦となる。4周目には1ポジション下げて14番手となるが、6周目には1分59秒556の自己ベストタイムをマークする。しかし、後続のマシンを引き離すことができず、7周目にも1台にパスされてしまう。第13戦よりもラップタイムは速いもののトップ10圏内のマシンからは離されてしまい、13周目に15位でフィニッシュした。正式結果では、上位に入ったマシンにペナルティが与えられたため14位となった。



野澤勇翔 選手

シーズンを通して思い描いた結果が残せてこられなかったため、最終戦のレースウィークに向けてイメージトレーニングを含めて準備を進めてきました。練習走行ではタイムが伸びなかったのですが、メカニックやコーチと話し合っ問題解決ができたと思います。予選はコンディション不良によって、40台が一緒に走るようになったためポジション取りに苦労しましたが、終盤には1周をまとめてタイムを残せました。ただ、路面状況が読み切れず攻められなかったところもあり、もう少し上位に入りたかったという気持ちが強いです。

決勝レースはともに課題だったスタートやリスタートが成功しポジションを上げられました。アクシデントを冷静に避けられたことも良かったです。ただ、ポイント圏内に入りたいたいという一心で焦りがありロスしているところもありました。やはり、メンタル面は今後も課題だと考えています。

今季は初のフォーミュラレースで分からないことが多かったのですが、チームの皆さんやコースの方が一生懸命に向き合ってください感謝しかありません。この経験を活かして、諦めず走っていきたいです。